

令和7年度 市民との意見交換会 報告書

開催日時 令和8年3月14日（土）10時から
開催会場 三原市役所
7階 議事堂（委員会室）
6階 会議室

【開催内容】

意見交換（テーマについての意見交換）

意見交換のテーマ	担当常任委員会
地域おこし協力隊について	総務財務委員会
日常生活における移動支援について	厚生文教委員会
広島空港を活かした賑わいづくりについて	経済建設委員会

三原市議会

「市民と議会をつなぐ意見交換会」 報告書

開催日	令和8年3月14日（土） 10時00分から11時30分		
開催場所	市役所6階 601・602会議室	参加者数	8人
委員会	総務財務委員会	出席議員	8人

■意見交換会テーマ

地域おこし協力隊について

■まとめ（できる限り詳しく記入してください。）

出された意見、意見交換した内容

(1) 地域おこし協力隊の制度について

(市民の意見)

- ・ 地域おこし協力隊をどのように募集しているのか、そしてどのような応募者がいるのか。
- ・ 本市の地域おこし協力隊のお試しをする人は、どのような動機で参加しているのか。

(意見に対する委員からのコメント)

- ・ 多くは本市ホームページを見て応募している。東京などの移住フェアにも出展しており、自身のやりたいことと照らし合わせて本市を選ぶ人もいる。
- ・ 本市を選んだ理由について委員による協力隊員への聞き取り調査を行った際に、広島市出身で近くを選んだ人、市の対応が良かった、空き家再生をしたかった、田舎でも都会でもないバランスが良い、他市町村よりも倍率が高くない、地域おこし協力隊としての柔軟性がある、といった理由が挙げられた。

(2) 地域おこし協力隊の人数について

(市民の意見)

- ・ 来年度の定員は14名だと思う。地域の活性化も目的とするが、一度に多数を受け入れるのは大変だと思われるが、どれくらい受け入れる見込みか。
- ・ 各テーマとしては適切人数だと思うが、農業とかは1名である必要はない。地域とのギャップなどがあり、複数人が入り、活性化させていくと良いと思う。

(意見に対する委員からのコメント)

- ・ 国の財源である。総務省との受け入れ体制が整えばもっと増やしていけるが、田舎に行くほど人数は多くなる。協議を重ねていく。
- ・ 地域ごとでの年齢が上がってきている。いずれ行き詰まる。その中で農業振興を考えていかなければならない。

(3) 地域おこし協力隊の任期について

- ・ 地域おこし協力隊は任期中に辞める人も多いと聞いた。途中でやめる隊員はどれくらいいるのか。
- ・ 協力隊の任期満了である3年後をどう意識して着任しているのか。メリットを伝えると良いと思う。
- ・ 自分の地域にも協力隊がおり、現在2年を終えたところである。3年間で成果を出していくのは厳しい。期間延長や、10年程度の支援が必要ではないか。

(意見に対する委員からのコメント)

- ・ 以前は下調べがうまくできておらず、辞める人もいた。着任前のお試し期間を導入して、着任後のイメージを具体化できるようにしたところ、令和2年以降、途中で辞めた人はいない。お試し期間を通して、協力隊の後の姿を想像して三原市を選んでいる。
- ・ 聞き取り調査をした中で、3年は短く地域に慣れようとするとうすぐ過ぎてしまう。1年目は活動地域に馴染むために交流し、2年目から先の準備を進め、3年目で本格的に自分の生業を探していく流れだと聞いた。

(4) 本市に在籍する隊員の活動について

- ・ 主にどんな分野があるか？
- ・ 西国街道とかデジタルをテーマとする人が新たに5名加わるのか？
- ・ 本町地区でたこ焼き屋をされているのが成功事例ではないか。須波にある「むすび」も成功事例ではないか。移住者を受け入れる成功事例を、もっとアピールしていくといい。
- ・ 高齢者分野で佐木島と関わっている。高齢者がいきいきと暮らしていけるような協力隊が来てくれればいいなと思う。

(意見に対する委員からのコメント)

- ・ 市全体をテーマにする隊員が既にいる。今の隊員数は全体で9名であり、これに5名加わる。
- ・ 本町のたこ焼き屋さんも活躍されている。3月で任期満了となるが、引き続き空き家改修などをされる予定である。須波駅宿舎のリノベーションも隊員が関わっており、テレビで紹介されていた。須波の「むすび」さんは協力隊ではないですが、大変成功されていると思う。
- ・ 参加分野に地域福祉を入れていこうと思う。

(5) まちづくりについて

- ・ 空も電車も海もあるが、広島県が人口流出ワースト1である。三原市も流出が多い。問題意識が政治家に薄かった。三原の魅力を出せば、留まることができると思う。小原工業団地で人口が増えると喜んだが、経済が不安定で流出した。将来像を見据えて、人口減少を止めるか、外国人かAIかとか話し合われているが、どう発信していくべきか？
- ・ 人口減少対策の成功事例を調査していると思うが、成功自治体の多くはお金に尽きる。本市は直してほしいところすらお金がないと断られる現状。自助努力が要るのではないか。

- ・ 旅行会社にいた。三原の住民は「してください」が多い。自分たちは骨を埋めるつもりできているが、その人たちが生活できるよう、地域としても考える必要がある。話が通じないから外国人として排斥するのではなくて受け入れていかないといけない。長期的な考え方を持たないと、人口減少が起きている。

(意見に対する委員からのコメント)

- ・ 総合計画を柱にして政策的に進めている。26年後の本市の姿を想定しており、市長は子育て支援に対する考え方を充実させようとしているとともに、商工業の振興を進めつつある。市民とともに目線を上げていくことを考えていきたい。
- ・ 人口減少は国においても歯止めがかからない。三原市のみが解決できるとも思わないが、何か手を打たなければならない。市長は雇用の創出で解決しようと試みている。教育など複合的な要因で住む先を選ぶと思うが、本市単体では難しい。都市間競争で他都市から本市に移り住んでいただくような環境整備が必要である。市と議会と協力して頑張っていきたい。

(6) その他

- ・ 駅前周辺の道路工事の終了時期について

まとめ

この度の意見交換会は、市民の方との意見交換を行う中で、今求められていることは何かを確認することを目的として、地域おこし協力隊についてご意見をいただきました。地域おこし協力隊の制度や、隊員それぞれの活動など、地域おこし協力隊についてもっと詳しく知りたいというご質問をいただくとともに、そもそもの本市の魅力発信の必要性や、将来を見据えた施策を考える必要があるといったご意見を頂戴しました。その中でも、協力隊員が地域と連携して、目指す地域おこしを成功させることによって、隊員も地域も魅力の発信も本市の活気にもつながると感じました。この連携にあたり、行政のサポートのありようを改めて考えていく所存です。

今回いただいたご意見は、議会として、政策提言へつなげていけるように努力してまいります。

「市民と議会をつなぐ意見交換会」 報告書

開催日	令和8年3月14日（土） 10時00分から11時30分		
開催場所	第1委員会室	参加者数	18人
委員会	厚生文教委員会	出席議員	8人

■意見交換会テーマ

- ・日常生活における移動支援について

■まとめ（できる限り詳しく記入してください。）

出された意見、意見交換した内容
<p>(本郷町在住の方からの意見)</p> <p>デマンド交通は制約があるので、もう少し乗りやすいような改善が必要であると感じています。</p> <p>(委員からのコメント)</p> <p>デマンド交通については、公共交通地域活性化協議会において、区域外でも支援できるように働きかけています。また、現在、三原市では県からの支援を受けて、GPSを取付けた試験運行をしています。</p> <p>(長谷町在住の方からの意見)</p> <p>高齢者が免許を返納して、コミュニティーに参加できなくなり、これが起因して健康上の問題も出てくる場合があります。大崎上島町には「おと姫バス」があり、停留所以外の場所で乗降できる「おと姫バス」とスマホから予約できる「デマンド型おと姫バス」の2つがあります。料金は大人200円で、車両はマイクロバスで小回り利いて、とても便利なので参考にしてみてください。</p> <p>(委員からのコメント)</p> <p>それぞれが選択できるメニューがあればといった視点で参考になりました。</p> <p>(大和町在住の方からの意見)</p> <p>通院、買い物、サロンへの移動を目的に、平成16年からデマンド交通を運営していますが、課題として、年々利用者が減少してきています。</p> <p>また、買い物支援が課題で、移動スーパー事業は品揃えも少なく、スーパーを誘致することも必要であると考えていますが、三原市はどのように取り組んでいるのか教えていただきたい。</p> <p>(委員からのコメント)</p> <p>ご指摘の課題に対して、議会として三原市に要望はしています。ただし、スーパーは個人事業となるため、公益性や公平性といった課題があります。</p> <p>また、移動スーパー事業に関係して、今年度は物価高騰対応として各世帯に商品券が配布されましたが、どこで使用すれば良いのか課題があり、移動スーパー事業でも使用できないか市に要望しており、そのような対策も必要であると考えています。</p>

(城町在住の方からの意見)

厚生文教委員会における今回の意見交換会のテーマについては、移動手段の話ではありますが、これまで佐木島の運賃助成を求めています、実現していません。

正直、テーマとしては難しいのではないかと感じています。

(委員からのコメント)

テーマとして難しいことは理解していますが、だからこそ委員会として取り組んでいく必要があると考えています。

(沼田東町在住の方からの意見)

持病の「てんかん」があり、車を運転することができないため、バスを利用したことがありますが、バス停で待っている時に発作が出たことがあるため、ドア to ドアでなければ利用できません。他の自治体は補助があるとお聞きしましたが、教えていただきたい。

(委員からのコメント)

他市町では、障害者への各種支援を実施しています。また、国の制度として障害年金や障害者手当があります。予算も厳しいですが、取り組んでいくことが委員会としての姿勢であり、少しでも意見を伝えていく橋渡しをしたいと考えています。

(沼田東町在住の方からの意見)

公的に補助することは良いことだと思っています。現在、高齢者が増えていますが、対象者が多い場合は、免許返納3年間や目的別（通院）補助など区切って検討されてはどうかと考えています。また、三原市の介護保険事業に関係して、1月から高齢者を中心に交通弱者を対象にした移動支援ボランティアを始めました。有償ボランティアにいくら支払いができるのかなどの課題はありますが、50名の利用対象者がおり、運用としては、週5日運行で予約はコミュニティーセンターに電話する仕組みとなっており、ひと月あたり50回の利用があります。1年間実施した後に情報提供をするので、支援の輪を広げていきたいと考えています。

(委員からのコメント)

国の方向性がコンパクトシティーに持って行こうとしている中で、行政としてどう取り組んでいくかが課題と考えています。また、タクシー支援について、尾道市では先進的な取組をしており、世羅町は免許返納者へ毎年3万円の支援をしています。三原市にはこういった制度がない中で、どのようにしていくかと今回のテーマになりました。

(委員からの意見)

行政としての改善点と利便性向上という面で利用者の声を聞かせていただきたい。

また、ダイヤハイツでのサロン移動支援運営について聞かせていただきたい。

(沼田東町在住の方からのコメント)

まず、改善点について、補助金が週3日以上の場合で1団体100万円となっています。現在、試行錯誤していますが、最低賃金の8割程度を支払うと事業の持続が可能ではないかと考えており、半分からの補助があれば、支援を継続できると考えています。

次に、利用者の方の意見としましては、市街地まで行ってほしいという意見が多いです。

運行としては、無償事業として、タクシー事業を圧迫してはいけないと考えており、近隣から始めることとしましたが、市内はバスがあることからバス停までを基本としており、沼田東町は商業施設がないため、市街地までとしています。

最後に、ダイヤハイツでのサロンへの移動支援については、町内会から全域に広げようとしていますが、運転手が高齢のため、担い手がいない課題があり、三原市やバス会社と話をしています。加えて、無償ボランティア金額を超えないように全国の金額を参考にしながら、金額設定しています。

(久井町在住の方からの意見)

久井町のほとんどの方は世羅町が生活圏となりますが、世羅までのバス便が減少している状況であることに加えて、デマンドタクシーは運行日が月水金の週3日で、帰りは予約しないと乗れないといったことや支援範囲が三原市内に限定されているといった課題があります。

その他、移動支援については、若い方と高齢者の方で温度差があると感じていることや、デマンドタクシーについては、タクシー運転手の担い手と経営維持の課題があると感じています。そういったことから、久井町外(市外)へのタクシー支援があればとても助かります。

(委員からのコメント)

久井町のデマンドタクシーについては、バス停まで出れないので、ドア to ドアにしました。現在、見直しを含めて色々と対応しています。それらも含めて委員会としてまとめて提案したいと考えています。

(中之町在住の方からの意見)

以前、介護タクシーをやっていましたが、その経験から、同じ町内に親戚がいるとは限らないということと、本郷町や大和町が色々と取り組んでいることは知っていますが、旧三原市では本町のような場所でも支援が必要と考えており、全域的に支援をしていくべきではないかと考えています。

(委員からのコメント)

三原市全体でどのような支援が良いのか考えています。利便性を向上するためなど、これから整理していく予定です。

(大和町自治連合会の方からの意見)

デマンド交通は稼働率が悪く、料金の回収率も悪いです。色々と改善しながらやっていますが、一緒になって考えていただきたい。また、タクシー券は、非常に効率が良いと考えています。

(委員からのコメント)

一緒になって頑張っていきましょう。

まとめ

意見交換を行う中で、改めて課題の大きさを痛感するとともに、新たな移動支援の必要性について確認できた。

具体的には、市街地以外の地域ではバス路線の減便に加えて、バス停での待機には身体的負担があるなどの課題があり、バス事業だけでは本市の移動支援を補うことが難しいことや地域のデマンド交通が普及しているものの、利用制限や経営維持に加えて、担い手不足などの課題があり、改善を求める声が多いことを把握できた。

そして、市街地についても移動支援が必要であることの指摘を受け、改めて地域に応じた、支援体制を考慮する必要性があることを認識できた。

そのような中で、体系は異なるが、尾道市に加えて大崎上島町でもニーズに合わせて選択できる手法が取り入れられていることや、本市の介護保険事業に関係にするボランティア事業などは、本委員会として、とても参考となった。

今回いただいた貴重なご意見を、今後の議会活動及び政策提言に向けて活かしていく所存である。

「市民と議会をつなぐ意見交換会」 報告書

開催日	令和8年3月14日（土） 10時00分から 11時 30分		
開催場所	第2・3委員会室	参加者数	21人
委員会	経済建設委員会	出席議員	6人

■意見交換会テーマ

広島空港を活かした賑わいづくりについて

■まとめ（できる限り詳しく記入してください。）

出された意見、意見交換した内容

グループに分けて、広島空港及び周辺地域の活用について意見交換を実施した。

■主な課題

（1）情報発信・認知に関する意見

広島空港周辺には多様な施設や資源が存在しているにもかかわらず、市民への認知が十分でない実態が明らかとなった。参加者からは「知らなかった」という声が多く、イベントや取り組みも含め情報が十分に届いていない状況が共有された。ホームページ中心の発信では周知に限界があり、資源が活用されていないと意見があった。

（2）交通アクセスに関する意見

空港への交通手段は限られており、交通アクセスの不便さが強く指摘された。現在の主な移動手段であるリムジンバスは、本数の少なさや運賃の高さ、駐車場所の限定といった課題があり、日常的な利用には適していないとの意見が多く見られた。

特に自家用車を利用しない高齢者や子育て世代にとっては利用のハードルが高く、「行きたくても行けない」状況が生じている。また、空港が高台に位置することから、冬季の移動に不安を感じるとの声もあり、立地特性を踏まえた移動環境の改善が求められている。

（3）利用環境の課題

利用のしやすさの観点からは、駐車場料金の高さが大きな障壁として挙げられた。特に家族連れでの利用においては費用負担が大きく、気軽に訪れることが難しい状況にある。また、飲食施設の選択肢が限られていることや、「ついでに立ち寄る」「長く滞在する」といった行動につながる仕組みが不足している点も課題として指摘された。

まとめ

意見交換を通じて、空港周辺には魅力ある資源が存在する一方で、認知度の低さやアクセスの課題、地域資源が十分に活用されていない現状が明らかとなった。

空港エリアについては、単なる観光拠点としてではなく、市民が日常的に利用できる身近なエリアとしても位置づけることが重要であり、そのためには情報発信の強化と交通アクセスの改善を一体的に進める必要がある。また、子育て世代や高齢者など多様な利用者層の視点に立った環境整備を行うことで、継続的なにぎわいの創出につながるものと考えられる。

今後は、情報発信の強化と地域資源の効果的な活用について検討を進めるとともに、引き続き地域の方々との対話を重ねながら、広島空港のにぎわいづくりを推進していきます。